

ご出席有り難うございました。

功労者受賞記念祝賀会が藤野山岳会
主催で3月5日(土)開催された
「柳田浩・日本体育協会功労賞」
「遠藤勝巳・日本山岳協会
50周年記念功労賞」



3月5日(土)に両氏の功労受賞祝賀会が相模
原市緑区牧野・神奈川県立芸術の家で50名
の参加者で開催されました。
当日は神奈川県山岳連盟の大曾根会長のご
出席を戴き、祝賀のお言葉が送られました。
祝賀会では藤野山岳会員による手作りの会
食が提供されました。
祝賀会に引き続き、第2部に移り、地元の二
胡の奏者・芳晴さんのコンサートで二胡の
調べにより山の歌が数多く用意され楽しい
時間を過ごしました。



なお、祝賀会でお祝いを戴いたアキモト印
刷社長のお言葉を紹介します。

皆様こんにちは本日は日本体育功労賞、受賞の柳田様、
日本山岳協会功労賞受賞の遠藤様、
おめでとうございます。

私は旧津久井町のアキモト印刷です。皆様が主催されるトレイル
レースのプログラム印刷等でお世話になり、有難うございます。

昨年9月の上野原トレイルレース会場に自社製品の日めくり愛語
集を持ってお店を出す許可をいただいた時に出会ったことを、一か
月ほど前、杉本会長にお話しいたしました。

先日、そのことをこの機会に話してほしい、ということで紹介さ
せて頂きますのでよろしくお願い致します。

9月12日早朝、上野原トレイルレースゴール会場だった島田集會
所の隅でテントを広げ、出店の準備をしていた時のことです。

前にいたベビーカーを持った親子連れに「おはようございます、
ファミリーで来られたんですね、いいですね。」と声をかけました。

すると40代初め位の男性は「妻が入院しているので5人の子ども
を連れて来ました。私がレースに出ている間、子どもたちを見てい
てくれませんか。」と言われました。

お話しを伺うとその男性は癌で治療中、それも、余命を宣告され
ていると言われ、さらに、癌だった友達がトレイルレースに出て癌
が治ったと聞き、参加の申し込みをしたと言いました。その日は35
度近い猛暑の中だったので、子どもたちは、私のテントの日陰に入
ってほしいと思い5人を引き受けさせていただきました。

それからは小さなテントに6年生の男の子を頭に小学3、2年生、4歳、
2歳の子と私とで6人。みんなで焼きそばを買って、分けあってお昼
を食べました。レース中、小3の女の子が小さな声で「お父さんの
病気が治ればいいな。」と繰り返していました。

6年生のお兄ちゃんが2歳の子のオシメを変えようとする、隣の
テントの青年がブルーシートを貸して敷いてくれました。お兄ちゃん
が、優しく声をかけながらおむつを替える様子を見たときは胸が
熱くなりました。

家のお店はというと全然売れません。というかレースが始まった
ので人がいません女の子二人は私の顔をのぞき込み「売れないね
ー。・・・そうだ並び変えよう!」と言って「これはここに置いて、
これはこっちに置いて移動し、子どもたちは大きな声で、愛
語集はいかがですか、愛語携帯ストラップ、おじちゃんいくら、45
0円はいかがですか」と大きな声で手伝ってくれたのです。

長野から来たという一人の青年が近づいてきて、愛語集を3冊買
ってください、「おじちゃん売れたね!」と女の子の嬉しそうな顔
を見たときは、その純粹さに、目頭が熱くなりました。

私は午後から予定があったので、隣でかき氷を売っていた青年
に、訳を話し子どもたちをお願いすると、気持ちよく引き受けてく
ださい、私が車に荷物を運んでいると、テントの中に入れてもら
い、ちゃっかりイスに座って、みんなでかき氷を美味しく食べていま
した。

「どうしたの?」と聞くと「お兄ちゃんがくれた!」と嬉しそうな
顔をしていました。

当社の売り上げは少なかったのですが、上野原トレイルレースで
それ以上に大事な、大切なことを、この子どもたちから、又バトン
を引き受けてくれた心優しい青年から学びました。

多くのボランティアさんに支えられ暑く厳しかった上野原トレ
イルレースコマに、病気に立ち向かう強い精神力を持った選手がいた
と、そして壮絶な親子のドラマがあったことを、ここで、皆様にお
伝えすることが出来て、本当に良かったです。

テントの中で、女の子に「お母さんは入院しているの?」と聞くと
「お母さんは心の病気の。」といった顔の中にお母さんを案じる
優しさを見つけ、それにめげない元気な姿には、剣道ではないです
が1本も2本もとられた思いでした。

貴重なお時間を頂きありがとうございます。

2011.3.12 秋本敏明